



プロジェクト報告 07
大田PJ 2010
-モノづくりのまち-

M E M B E R S



川原先生



岡村先生



野原先生



首都大学東京



横浜国立大学
YOKOHAMA National University

大田区観光協会



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

大田区とは

明治末期の近代化以降、
ここにある無数の小さな町工場が、
磨き上げられた技術で日本の工業を支えてきた。

工場数 4778件 (2005年 **23区中1位**)

従業員 (1-3名) 2389社 (50%)

従業員 (1-9名) 3918社 (82%)

従業員 (1-19名) 4396社 (92%)



羽田空港国際化！



首都高1号羽田線 可動橋



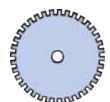
暮らしが垣間見える
モノづくりの環境



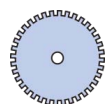


新呑川の風景。

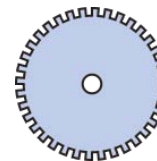
プロジェクトの活動目的



都市計画や観光学の立場から「モノづくり」の魅力を活かした「産業まちづくり」の在り方を提案・実践



既存の「産業観光」（＝産業遺産観光・伝統産業観光）とは異なる、生きた産業を対象とした「モノづくり観光」の在り方を探求しています！



「モノづくり観光研究会」を組織

生活スタジオ

住工近接のまちでの暮らしに着目。
町工場の建築を「工場町家」と名付け調査を行ない、また商店街等の関係も調査。

観光スタジオ

モノづくりの技術や製品を活かした新しい観光の在り方を考える。工場の3Kのイメージをいかに払拭し、地域でより身近な対象としての工場のありかたを調査、提案。

産業創造スタジオ

モノづくりの技術の新たな活用について考える。アーティストと工業技術のコラボレーション等、従来の工業とつながりのなかった分野との連繋可能性を探る。



3つのスタジオそれぞれに調査

月に1度のモノまちスクール
(MTG) にて報告、全体で連繋。

2月に行なわれた大田工業フェアでの発表に向け、
調査をまとめ、企画を練った。





生活スタジオ

町工場の建築を「工場町家」と名付け調査を行ない、個々の建築の特徴を魅力的に紹介した（東京R不動産的）。また、工場町家のリノベーションの可能性を模型で示した。



観光スタジオ

ガチャポンを使い大田区の工業製品を楽しく、身近な形で手に取るしくみ「モノづくりたまご」を実機を製作して提案。最終日にはガチャと組み合わせたまちあるきを開催。

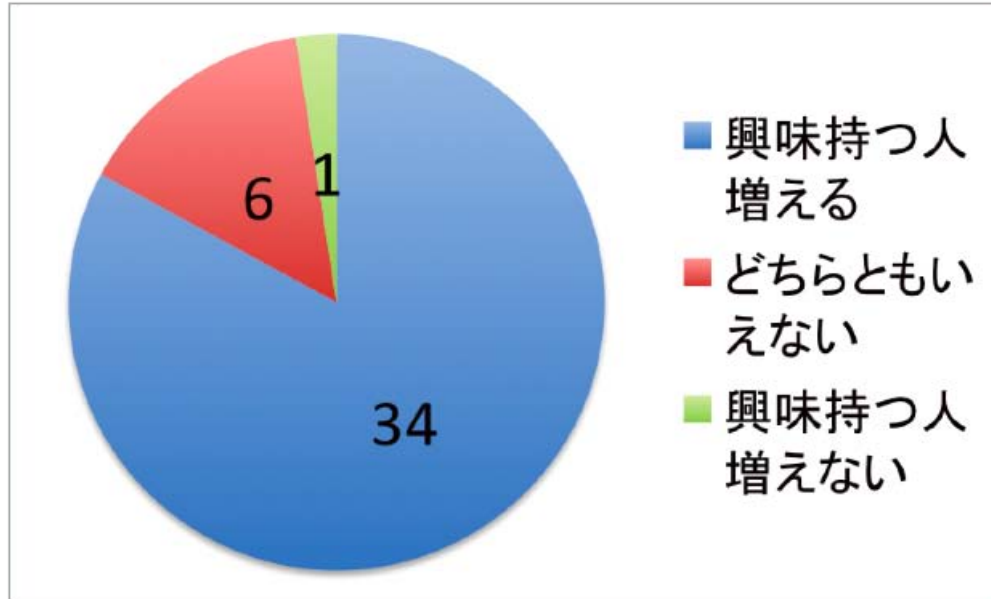


産業創造スタジオ

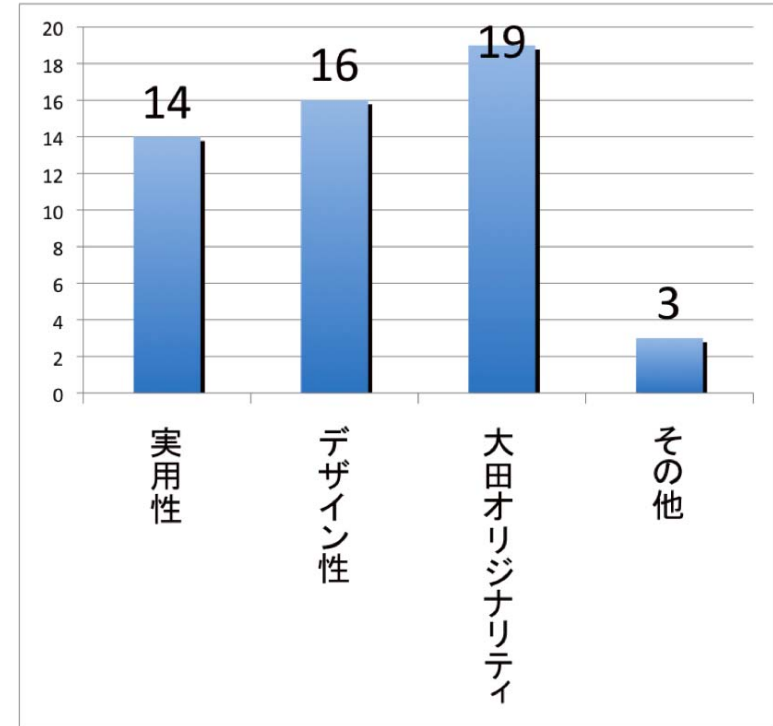
大田区内の亚克力加工工場に製作を依頼し、展示用のキューブを企画・実現した。
小さな工業製品、工業部品を内部に入れてひと味違った見せ方での展示の可能性を提案。

工業フェアでの発表の成果

大田区の観光に興味を持つ人増えるか？



ガチャに求めるもの



来場者属性

性別： 男性 35人、女性 7人

来場目的： 来場者 25名、出展者 6名、スタッフ 1名

職業等： 一般 25名、工場関係者 15名、学生 3名

観光スタジオでの取り組みについてのアンケートを行なった。大田区の製品を手にする際の要望や、今回のガチャポンを用いたモノづくりと観光を結びつける仕組みに対する感想などをきき、今後の取り組みに活かす。



大田区に行ってみたい
町工場に行ってみたい
好きな用途地域は準工業地域
都市観光に興味がある

他大学と関わりたい
まちの人の生活に触れたい
新しい研究分野を開拓したい
蒲田で羽根つき餃子が食べたい